

さくらのひと、みっけ！

全国で輝いたレスリング兄弟 夢に向かって全力タックル



いまよし じょう けん
今吉 丈さん・健さん

今吉丈さん・健さんは、今年7月に東京都で行われた全国少年少女レスリング選手権大会に出場。丈さんは5年生 36 キログラム級で準優勝、健さんは3年生 26 キログラム級で優勝と、輝かしい結果を収めました。

高校・大学とレスリングに打ち込んでいた父・雄一さんに連れられ、桜井市レスリングクラブに入部。それから「ほぼ毎日」という練習漬けの日々が始まりました。自宅でのトレーニングやクラブでの練習に加え、週末は県内外のクラブに出稽古。二人は競うように練習に励み、大きな大会でも活躍をみせるまでに実力をつけます。

そして迎えた全国の舞台。実力者を相手に、二人は得意のタックルを武器に勝ち進みます。丈さんは決勝戦で惜しくも敗れますが、健さんは勢いそのままに頂点へ。「昨年は取れなかったメダルを取れてうれしい」（丈さん）、「初めての全国大会で優勝できてうれしい」（健さん）とそれぞれの思いを口にします。

「練習と日常生活のオン・オフを大切にしている」と雄一さんが話すように、遊びや家事の手伝いにも全力で臨む二人。将来の夢を「人を助ける看護師」（丈さん）、「悪い人をやっつける警察官」（健さん）と話します。レスリングで積み重ねた努力と忍耐力を武器に、二人はそれぞれの夢を追いかけます。

共に生きる

～第77回人権週間～

昭和23年12月10日の国際連合総会において、基本的人権および自由を尊重し、確保するために、世界の全ての人と全ての国が達成すべき共通の基準として世界人権宣言が採択されました。それを記念し毎年12月10日を「人権デー」とし、加盟国に対し人権擁護活動を推進するための各種行事を実施するよう要請しました。こうした経緯から、日本では昭和24年に12月4日～10日の1週間を「人権週間」と定めました。毎年、全国各地で啓発活動を行い世界人権宣言の意義を訴えるとともに、人権意識の高揚に努めてきました。

ところが、私たちの周りでは、いじめ・虐待・性被害などのこどもの人権問題や、インターネット上

の人権侵害、障がいのある人・外国人・性的マイノリティなどに対する偏見や差別、部落差別（同和問題）、ハンセン病問題など、多様な人権問題が依然として存在しています。

これらの問題の解決には、私たち一人一人がさまざまな人権問題を誰かのことではなく、自分のこととして捉え、互いの人権を尊重し合うことの大切さについて、認識を深めることが不可欠です。

この機会に、家庭・職場・学校などで、身近な人たちで人権を一緒に考えてみませんか。

互いを理解し、誰もが人間らしく、幸せに暮らしていける社会を目指しましょう。

